

大野木グラウンドワークだより

平成 20 年 12 月 16 日 発行 NO 27 発行責任者 藤田 博、伊藤 晋

12 月 9 日（火）平日ですが、我が大野木 GW のパワーはすごいです 18 人の方が集まってくれました。天気予報は雨マークでしたが、何とかもり状態でお昼までセーフ。

焚き火が風景になってきました。ファイヤーサークルでは勢いよく煙が上がり、もう一箇所で枯れ竹処分も兼ねて燃え出しました。竹の火力にはいつも感心しています。

本日のメイン作業はホダ木づくりです。ガスカート側へはみ出していた栗、どんぐり等の枝をバケット車を使って切り落としていただいたものの整理。とにかく里道横に盛り上がっている枝葉を整理していくと、手ごろなホダ木が出てきます。それをサイズに合わせて 3 台のチェーンソーが切っていきます。

さすがきついですね、10 時前ではありましたが、誰と無く「休憩しよう」の声あり

休憩には紀美子さんお手製のユズ茶に一同舌ずつみ、みんなうれしい笑顔が広がりました。

そして、実のなる木の植栽です。みかん 3 本、スモモ 4 本、ユズ 3 本しっかりした苗木を選んできましたので来年すぐにも実をつけると期待出来ます。

女性陣にも参加していただきピオトープの築山周辺にみかんとスモモの 4 品種がそして観察デッキ近くにユズ 3 本の植栽を完了。

で、ホダ木の整理はまだ少し残っていますが、社員クラブから昼食準備 OK の携帯連絡、

「まだもうちょっと残っているから」でも「12 時回ったから、はよ、よばれんと昼からのことがありますやろ」の声にせかされて社員クラブへ

食事はいつものように沢山の盛り付けでメインはブタ汁、公園に出ていた「ひらたけ」が入っていました。またまた差し入れは手羽先、とう菜煮、えび豆、ぜいたく煮、その他野菜とおつけもの。いつもながらわずかな賄い費で工夫していただき自然風土あふれる地産野菜による豪華な昼食献立をコーディネートしてくださる女性陣に感謝です。

おいしく、楽しくいただきました。

昼食後も男性は作業続行、女性陣は後始末と楽しいおしゃべりだったそうです。

会員寄稿

無償の働き（微笑）

毎月発行されるグラウンドワークだよりを読んで感じますことは、多くの方々の無償の働き、無償の努力です。

土地を無償で提供して頂いた地主の方、竹を切り整地をして、建造物を造る実作業をしていただく方々、食事の用意をしてくださるご婦人方、厨房と食堂を提供していただく企業、発行紙を担当してくださる方々。

私も参加させて頂いているのですが、その時にはこのような事は意識していないし感じていないのですが、グラウンドワーク便りを読むときには、全体を客観的に見る事が出来るからでしょうか、感激と興奮を覚えるのです。

無償の働き、無償の努力（ボランティア）を、私は微笑であると思っています。微笑は周囲の人たちを明るく和やかにして勇気を与え、人々が意識しない間に、「感染、伝染」していきます。

私たちのこの活動も、周囲の人たちに「感染、伝染」して、このような微笑が色々な分野に広がり、子供たちが自慢の出来る故郷造りが出来ればと願っていますが、その願いが実現出来そうな、進展が前回のグラウンドワークより起こりました。それは多くの若く有望なる方々の参加です。

これは私の希望的な観察ですが、区民の方々にも微笑が感染し始めているように思います。区民全体の広がりへの思いを、若い人達と共に願えることが希望を大きくしてくれます。無償の働き、無償の努力は、消えることのない宝を、人々に私たちの心に確実に蓄積されたことを確信しています。

小澤勝巳

二酸化炭素 CO₂ を語る前のお話二つです

10月29日長野市で開かれた第50回全国社会教育研究大会に参加して、基調報告の後に記念講演を聞く機会をいただいた。

講師は地球物理学者 赤祖父 俊一 氏である。氏はオーロラ及び地球電磁気学における世界的権威として活躍中で受賞多数（ノーベル賞だけはまだ）アラスカ大学国際北極圏研究センター名誉所長でもある。

氏は1930年（昭和5年）長野県佐久市生まれ、東北大学からアラスカ大学に進まれ博士号（Pn、D）取得、国籍は変更、アメリカ市民権取得 以来50年アラスカにおられるという方である。

で前半は地球磁気とオーロラについての謎と魅力について興味深く話を伺いました。

問題は後半です。今、炭酸ガスが科学者の間で宗教になってしまっているという鋭い指摘です。

様々なデータ駆使しての説明によりますと、1000年頃北半球は暖かくグリーンランドに大勢の人が移住したそうです。その後、1600～1800年は寒く「小氷河期」にそのほとんどの人が死ぬことに。資料写真から明らかにテムズ川は凍っていました。この小氷河期は1800年に終わっている。

海面上昇は1850年から年1.7mm、100年で17cmというスピードで上がっていたが、今は止まっている。氷河の後退は1800年から始まっている。

炭酸ガスは1946年から上がっていて、2001年から温暖化はすでに止まっている。

もともと気温上昇が1000年くらい続いて、その後に炭酸ガスが増えてくる。

これらの事実データを人工衛星を飛ばし、ゾンデ投下等々から得られたものから簡潔明瞭に説明されました。

だから、今「炭酸ガス」を原因とする一方的論理には科学者の目から異議ありとするメッセージなのであります。

そして、元来科学は討論することでありそのことなくして進歩はないというわけです。

次に11月になって、アイヌ蜂起の遠因は厳寒にあるとする研究結果が北海道開拓記念館の添田雄二学芸員によって日経新聞に発表された。

北海道中のアイヌ民族が松前藩の圧政に反抗して蜂起した1669年の「シャクシャインの戦い」。その遠因には地球規模で気温が低下した「小氷期」と呼ばれる時期が関係しているというもの。

小氷期とは13世紀ころから19世紀半ばごろまで続いた地球の北半球の厳寒期。日本でも現在より気温が最大5度も低かったことが、屋久杉の年輪調査による約2千年分の古気候復元データでわかっている。

シラクシャインの戦いは小氷期中でも最も寒冷な1600年代に起きた。日高と門別のアイヌ同士の漁業権争いに端を発した戦いは、一人のアイヌ勇士の呼びかけで松前藩を敵とする全道規模の蜂起に拡大した。

その1640年から67年にかけて道南の駒ヶ岳、有珠山、樽前山が大噴火、火山ガスの影響で太陽光が届かず地表温度が低下。噴火と小氷期。この二つの相互作用により寒冷化が生活環境の悪化と食糧物資の不足を招き、藩の財政が悪化、藩はやむなく搾取を強め、アイヌを追い込んだというもの。

オーロラの研究家である地球物理学者が指摘する炭酸ガスの現状。一方、アイヌ文化の研究家による歴史背景の指摘。この二つの地球をめぐる指摘から何が学べるのか。すでにCO₂排出量取引は始まった。東京大学がローソンに4,000tをクレジットするという。

確かにカーボンオフセット（炭素帳消し・・・二酸化炭素を出してしまっているが、他のところにお金を出して帳消しにしようとするもの）の動きは了としながらも、少なくとも自分で出すCO₂は自分で何とかする考えは広げていく必要ありですね。

この二つの話の脈絡から地球規模のスケール検証といいますか、冷えた地球が暖まりはしたが果たして今どのあたりに位置しているのかふと考えた次第であります。寒くなってきました時に寒かった話で恐縮です。

で巷、何かこと起これば一斉にその方向に向かっていっているのではないかとする反省、反論、意義ありとする論理思考もまた大切なことであると考えてよろしいのでは、だからと言って全然大丈夫ですよと言う気はさらさらございません。

ただただ、世の中様々な事象に対していろいろ考えをめぐらし、それを手元の「スローライフ」に生かせれば一番なのですが、

今、温暖化、温室効果ガス云々は毎日、聞かず、見ず、言わざる日はないのでございます。ところが、実はその後に寒冷期がくるとは誰も言ってませんし、気にしていません。我々の子孫が、それも三代から四代くらい後の方になりますが、寒さのため多くの人々が命を落とすことになるや、いなや・・・

で、次はもっと近くのお話を一つ

小谷城歴史資料館絵図によれば、浅井氏の重臣であった大野木土佐守の屋敷は上方谷道沿いに西側本丸の奥に位置しています。

群書類従第21輯（しゅう：集めてまとめる意）巻第387合戦部19の「江濃記」をずっと見ていきますと、佐々木両家わかりの事、六角京極合戦事、尼子合戦之事、京極生害之事、雲州佐々木由来有事、浅井出身事、土岐殿事、斉藤ガ事、土岐殿斉藤不和之事の次に道三最後之事が出てくる。これは少し長文ですが、その中に大野木土佐守の記述があります。

（注）

ぐんしょるいじゅう「群書類従」とは

江戸時代に各地に残っていた歴史書や文学書や故実書など、数多くの書籍を集めて、テーマごとに分類し収録した叢書。

国文・国史学研究に使われている。

勅撰漢詩集「経国集」、都良香「都氏文集」、中世の故実集「年中行事秘抄」、秀吉の一代記「豊鑑」など正編530巻。続編1150巻。

正編は文政2年（1819）、続編は明治44年（1911）に刊行完了。

いまでも現役の叢書ですから大き目の図書館ならあります。ルッチにもあります。が、貸し出しは禁止の書籍ですからちょっと不便ではあります。

作者は塙保己一（はなわーほきいち）

（1746～1821）江戸後期の国文学者。武蔵の人。幼名、寅之助。号、温故堂。7歳で失明。江戸に出て賀茂真淵らに学び、抜群の記憶力により和漢の学に通曉。幕府の保護下に和学講談所を建て、晩年、総検校となる。

さて「江濃記」です。京極家から近江と美濃のことを中心に合戦の記録が書かれています。

前略～

永禄7年3月上旬長政6千余騎ノ勢ヲ卒シ濃州へ発向ス。先懸ハ磯野丹波。二番備三田村左衛門。野村肥後。堀遠江。大野木土佐守其勢二千余騎。旗本二千余人。垂井赤坂ニ陣取りテ在々所々ニ放火ス。斉藤方ニハ評定トリトリ成リ。永井隼人佐トカク滅亡時至ル。先ヅ足軽ヲ出シ浅井應答。～

～中略～

浅井衆先手ハカヲ得テ叫デ切テカハル。牧村敵モ川ヲ越。卒爾ニ懸ルナ。備ヘヲ立ヨト彼方此方下知スル間ニ。浅井衆突懸リケル間。牧村野村勞レ引色ニ見ユレバ。堀。三田村。大野木。野村ガ勢ニ千余騎。川ヲ渡リヲメキ叫デ切テカハル。美濃衆引退道家平左衛門ハ備立。互ニ待カケレドモ。浅井勢敵ヲ難ナク追拂。百七十八討取勝鯨音上ケル。～

～後略

すごいですね。大野木土佐守は。果たしてこの方が大野木にどのような関わりをおもちなのか判然としませんが、群書類従をさらに調べる～家系図なりが分かればいいのですが、それはまた次にでも・・・

それからもっと身近なお話を一つ

京極家の菩提寺である霊通山清龍寺徳源院に奉られている初代氏信（1283）から幾多の栄枯盛衰はあるものの、19代高次のとき関が原合戦の際、大津城において毛利軍の進撃を防いだ功績が認められ京極家の建て直し：中興の祖とされていますが、それから下がること、22代高豊は寛文12年（1672）丸亀の領地と交換に清滝と大野木の半分の（600石）交換を幕府に申し出て、それが認められ寺の復興、三重の塔を建立。院号も高知の院号から徳源院と改称された。庭もこの時に小堀遠州によって作られています。

当時 1石（2俵半）は年間一人分といわれ、600人分のパワーを示していることになります。

ですから大野木は徳源院の再興に大きく寄与していたことがわかります。

さらに具体のお話として

ある懇談会の席で樋口正和さんと話しが盛り上がり、「中学生をグラウンドワーク体験させてはどうか」「やまんば」では既に米原中学が実習しているとのこと。

柏原中学だけでは人数が少ないから伊吹中学と一緒にどうかというもの。

乗った、この話、是非プログラムを動かしていきたい

9月、10月に竹きり、引き出しに大いに若者の力が期待できますし、汗をかく作業体験、そしてクラフト。食事。それらを通じて「なぜこの活動」の意味を伝えていきたいと考えます。

まずは教育委員会にプレゼンをして中学にという段取りにと思っています。

このことに積極的なご意見、ご提案をお願いいたします。

最近ルッチ大のイベントとかで臥龍公園を訪れる機会もあり、また現地での打ち合わせ、食事会等々大変お世話になっております。

もう臥龍公園は10年目ということで、貉会が最初に4人でトグワを持ってコンコンやり出したというくだりから、ずーっと話を何回か伺いましたが今日の完成度はすごいですね。芝生広場、灯籠、門の移設、足湯、もちろん「かやぶき庵」があって、今は横山ハイキング歩道の整備に当たっておられます。

さらに、ますます、これからもがんばっていかれるでしょうし、これは村居田というより米原市の宝物になっていくと思います。

このここまでのエネルギーは「貉会」という任意団体なればこそ、やる気集団のなせる技であると感服いたしております。

私ども大野木グラウンドワークもこの良きお手本を見ながら頑張っていきたいと念じております。

大野木は3年目です。これから7年もすれば臥龍公園に追いつけるか、いえいえ、かけっこではございませんで、大野木は大野木のポリシーで里山づくりの精神、地域特性、ガスケットさんはじめ地元企業さんとの連携を大切に、グラウンドワークの趣旨を活かした活動～今日的な要請であるグリーンツーリズムへの方向性をもって大野木ならではの政所夢塾公園を維持運営して行きたいと考えております。

21計画へのワークショップで大いに議論しながら、あのイメージ、森の中にこどもと誰が～三世代の交流基地として～

次のステップを確実に歩みたいと願っています。価値観を共有できる仲間たちと前進あるのみです、がんばりましょう。

雑感

いつの時代においても、その時々^{その時々}の社会経済情勢はめまぐるしく変化しているのであります。今、アメリカ発世界不況が深刻さを増してきており、我々の身の回りにもじわりとボダイブローのような形で影響が出始めています。

不況になれば企業活動が鈍り、利益が出ず、税金は落ち込み、行政の力はさらに弱まってしまいます。

振り子はどう振れることになるのでしょうか。

「市場の失敗」の後始末を各国政府が行うことで再び時代は「大きな政府」になるのでしょうか。せつかく規制緩和されたもの、民営化されたものが規制強化、国営化に戻るとなるとこれは困りますね。

道路やダム^{道路やダム}の公共事業ではなく脱温暖化ビジネスを広げていくことで環境と経済問題を克服する「グリーン・ニューディール」がオバマ政策とも言われています。

これはアメリカが 180 度転換することになり、まさに「チェンジ」であります。

前出の温暖化議論に異議ありとする科学者の声も大変気になるではありますが、・・・国内状況も新たな局面を迎えるかも、いずれにしても皆さん、この時いかが過ごされますか。

どこかで、次々と大きな事が起こってきます。ここは「我慢と辛抱」も大事かと存じますが、

輪転機が故障してしまっていたので発行が 4 日くらい遅れましたので、その分記事も膨らみました。次回は 1~2 枚にしたいと思っています。

12 月 21 日は公民館に 11 時に集合願います。

今後の予定につきまして

1 月 10 日（土）炭窯修理とワークショップ「21 プラン」

2 月 8 日（日）炭窯修理と菌打ち

3 月 8 日（日）炭窯修理・総会「20 決算と 21 予算」

年初なにかと行事がありますので、重ならないようにと考えてはおりますがよろしく願いいたします。新しいカレンダーに書き込みをよろしく。

大野木グラウンドワークだより NO27 平成20年12月9日(火) 晴れ



日ガスの境に大きなドングリの木枝が繁茂し支障をきたしていたので枝を伐採、その枝で、「椎茸ホダ木」作りをしました。



沢山の冬イチゴが熟しました。
おいしそう……



足場の悪い場所を一輪車で運ぶのも一苦労



女性の方にはおいしい「みかん」の植樹を
男性は酸っぱい「ゆず」と「すもも」を植樹しました。

継続は力なり



椎茸のホダ木を沢山作って頂きました
来年2月に植菌をいたします。ヨロシク



火が恋しい季節になり、ファイアサークルを囲んで
21日の忘年会のお話がはずみました。

平日にも係らず18名の参加
有り難うございました



滋賀県振興局森林課より足立さんが視察されました



公園内の落葉樹は全て葉が落ちました。



実のなる樹木の植樹をし18名の参加者で記念にパチリ